

# 会社の「倒産シグナル」

社長は未来を語らず、会長は古い体質のままで、部下からはクーデター騒ぎ。最近の自民党を見ていると、倒産寸前の企業のように。「他山の石」にするしかない。

身動きが取れない。手際が悪くて、配布されるはずの資料がなかなか手に届かない。記者たちのブライニングが飛び交う。

自民党のマニフェストは、その中身だけでなく、発表の舞台設定も穴だらけだった。

## 雪印と船場吉兆

会場選定が明らかにミス。集まった記者の数に対して会場となった党本部の会議室は狭く、缶詰め状態。時間配分もミス。発表する麻

生首相は、冒頭30分間延々と原稿を読み上げ、残りたったの15分ほどしか質疑応答に充てられなかった。しかも、

「平河クラブ（自民党担当の記者クラブ）の記者から質問を受けたいと思います」と、司会者が前置きして、かなり閉鎖的。顔なじみの記者からの質問にも、麻生首相は不機嫌な様子で、ちぐはぐな回答をするだけで、実質的な回答は、

園田博之政調会長代理が補足。トップがすべてを把握しておら

頼りない党首を覆い隠すためか、と勘ぐりたくもなかった。「会見は言葉だけを伝えるのではない。会場セッティングや資料の作り方、発表者の声のトーンや表情など、様々な情報を発している。最低限の段取りも整えられないなら、その組織は崩壊の危機だとさらすようなもの」と、広報やPRの専門家で、

メディアアブリッジコンサルタント吉池理さんは話す。特に、今回の自民党のように、

「私は外添要一を中心として変えていきます」と、

ず、周囲が慌ててカバーする様子は、トップに情報が集まらないという、組織の弱体化や硬直化を如実に表してしまおうという。そう言えば、不祥事を起こし、後に業績悪化や倒産に至る企業の会見にも同様の光景がある。

社長が答えに窮し、同席した役員から発言を修正され、揚げ句、「私は寝ていないんだ」と筋違いの言い訳をしてしまった雪印乳業。謝罪会見で答えに詰まる取締役の長男の横で、「頭

が真っ白になって（と言え）」とささやいた女将が一躍有名になった船場吉兆……。

どうして、自民党は「倒産企業」さながらの醜態を露呈するようになってしまったのか？

## 監督と選手が不在

今回の総選挙で、関西の与野党候補者の支援をする選挙プランナー、松田馨さんは言う。

「前回2005年の郵政選挙で自民党に吹いた風に味をしめたことが災いした。政治の中身を変えないでも、トップや候補者の『顔』さえ変えれば何とかなんと勘違いしている。パッケージを変えただけでは消費者から古い商品のままと見抜かれてしまっている。長期ビジョンを打ち出していないので、その時々々のトップの気分や組織の力学で、目先の利益を追うようになってしまったようだ」

自民党を「古い考えの高齢社員がのさばり、内部改革できない倒産寸前企業」に例えるのは、「不利益分配」社会——個人と政治の新しい関係」の著者、高瀬淳一（なせじゅんいち）名古屋外国語大教授。

「安倍、福田、麻生と登板した投手（党首）がごとごとく打ち込まれたのに、交代を判断する監督も、交代要員もいないチーム。外から補強するしかないが、まともな人材確保もできない。変種の小泉チルドレンも見殺し

### 会長



森喜朗

総理の発言について、怒るというより笑っちゃうくらい、ただただ、あきれている

### 特別顧問



小泉純一郎

### 社長



麻生太郎

私の発言やぶれたと言われる言葉が、国民に政治への不安、不信を与え、自民党の支持率低下に繋がったと深く反省している

麻生さんにはこれだけ党に対する批判があるわけですから、澄み切った気持ちで日本の将来を考えて頂きたい

日本は外添要一を中心として変えていきます

任期切れの選挙のようだから、戦い方はこれから考えます

### 取締役



細田博之



与謝野馨



舛添要一

### 部長



中川秀直

自民党の人心一新が必要だ

党を出ていけというのなら新党をつくればいい

### 課長



嶋山邦夫

手を挙げたが、発言の機会もなかった。（首相を持ち上げる）ヨイシヨイ係がいっぱい発言を当てられたので仕方なかった

## 倒産寸前 株式会社 自民党



山本拓

### 社員

(麻生降ろしの動きは)  
代わりがないのに、  
飛行機のパイロットを  
降ろすようなもの

- 0~5 経営(政権)は安泰
- 6~10 ちよつと危ない(政権交代の可能性)
- 11~15 相当危ない(政権交代へ)
- 16~20 実質破綻で再建見込みなし(政権崩壊)

# あなたの会社は大丈夫？ 倒産チェックリスト

- 社長(首相)に信頼できるブレインがない
- 社長がリーダーシップを失っている
- 社長が見知らぬ人と密談している
- 企画立案をコンサルタントに丸投げしている
- 社長とほかの役員(閣僚)間で争いがある
- 社長が体調を崩している
- 休業を命じられている社員(議員)がいる
- リストラを断行している
- 社員が覇気を失っている
- エース級の社員が辞めた
- 内部告発をしている社員がいる
- ヒソヒソ、ゴソゴソしている社員がいる
- 社員に高齢者が多い
- 売上高(得票)が3期連続で減少している
- 社会保険料(年金保険料)の納付を先送り(未納・滞納)している
- 福利厚生が低下している
- 賃金や待遇面で労使対立が起きている
- 支払い利息が急激に増えている
- 借入金(国債発行額)が月商(税収)の10カ月分以上ある
- 財務キャッシュフロー(借入金の残高)が毎年増えている

※落合幸裕税理士の話をもとに作成。  
カッコ内は編集部注釈



「民主」経営企画室だけ」  
今の自民党は、リーダーの資質の問題を超えている、と指摘するのは、元運輸官僚で、「官僚国家日本を変える元官僚の会(脱官僚の会)」の発起人の一人、上山信一(慶應大教授)。

「自民党というシステムが時代に合わなくなったのに、他の政党の力がないという外的要因で生き延びてきた。本来は倒産している企業が経営を続けているようなもので、だれがリーダーでも同じ。今回の総選挙は、そのシステムを根本的に破壊して再生する機会に、やっとなるのではないか」

「日本株式会社」の経営者となるのか。だが上山さん曰く、「本社は腐っていても地方支社はしっかりした老舗企業」の自民に對し、民主は「経営企画室だけでは充実しているが、末端組織はお粗末なベンチャー企業」。

政権交代が進んだとしても、世界に通用する「日本株式会社」を作るには、再び政界再編をする必要があるのかもしれない。

編集部 木村恵子、山下 努

古い組織はやることも古い。自民党を企業に例えれば、斜陽企業が高度成長を忘れられず、借金をしまくって設備投資をし、自ら首を絞めているようなものと、高瀬教授は指摘する。「日本の経済成長が終わって、超少子高齢化社会の中で、巨額債務を抱える政府は、利益誘導ではなく、国民への不利益の配分が仕事なのに、ばらまき路線から決別できていない」

と、過半数にチェックが付くよ。うだ。「相当危ない(政権交代へ)」のレベルである。

①は、リーダーが語る言葉の語尾に表れるという。「〜した」と明確に言う代わりに、「〜を検討中」などが多用される場合は崩壊度が高い。「曖昧なリーダーは、志がなく、ただポストを求めて権力闘争の末に、就任した場合が多い。周囲にもポストを狙う、すり寄り型の部下が集まってしまふ」

②の指摘は、「麻生降ろし」で少数派に身を勝手に行動した自民党そのものだ。有効に機能する組織では、末端にまでトップの意思が伝わり、小集団が鎖のようにつながるといふ。

## 三つの典型シグナル

政党内企業も、組織が崩壊する時は同じ道をたどる。「社長！こんな会社が倒産します」の共著者、落合孝裕税理士に、倒産寸前状態を見極めるための20項目のチェックリストを作ってもらった。自民党に当てはめる

経営コンサルタントで、「社員が惚れる会社のつくり方」の著者、舞田竜宣さんは、崩壊する組織のわかりやすいシグナルを三つ挙げる。①リーダーの言葉が曖昧②小集団でバラバラのミーティングが多い③後継者を育てようとしていない。

③の後継者育成は、トップがある程度長期的にポストに座る必要があると指摘する。ゼネラ